

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

ロイヤル・ウィンター・フェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修 報告(前編)

平成24年度 全酪連会員担当者研修会

全国酪農青年女性会議
二若副委員長に聞く!

嫁・婿が語る酪農の魅力/山田 克枝さん
酪政連活動報告



酪農トピックス/
「マザーズ市場」開催される(熊本県酪連)ほか
栄えある秋の叙勲 褒章

11/15 都内随所でTPP反対緊急集会開催される!
日本酪農見て歩紀(新潟県新発田市 中野牧場)



12

2012 December No.567



全国酪農業協同組合連合会

ロイヤル・ウィンター・フェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修

報告
—前編—



◀ クランホルム農場



平成24年11月7日(水)から14日(水)までの6泊8日の日程で、(社)全国酪農協会主催「ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修」に参加させていただきました。参加者は第41回全国酪農青年女性酪農発表大会発表者7名、全国酪農青年女性会議役員1名を含む総勢17名。団結式を成田空港の一室で行った後、定刻通りに離陸した国際線で、一行は日本を旅立ちました。

シカゴでの乗継を含めると13時間超となる移動時間は、筆者の人生で最長のものでした。参加者にも初の海外という方もおり、トロントに着くころには皆クタクタという顔でした。ホテル近くのレストランで夕食をとり、近くにあったセブンイレブンをみ物。寝酒を求めましたが、カナダはライセンスを持つ酒屋やレストラン以外での酒類販売は禁じられているとのことで売っていません。煙草は売っていましたが、べらぼうに高い。また自宅以外の建物は法律で禁煙とされていて、皆寒い路上で吸っています。ポイ捨てに関する法律はないのか、吸殻がそこら中に捨ててありました。



1日目 11月7日(水)

11/7(水)	成田空港よりカナダ(トロント)へ
11/8(木)	ナイアガラの滝とトロント市内観光
11/9(金)	ロイヤル・ウィンター・フェア視察
11/10(土)	サミットホルム農場(オンタリオ州)視察 クランデール&クランホルム農場(オンタリオ州)視察
11/11(日)	空路、米国(サンフランシスコ)へ 米国酪農情勢についての講演
11/12(月)	ヒルマー・チーズ工場(カリフォルニア州)視察 ヴェルシナ農場視察
11/13(火)	空路、サンフランシスコより成田空港へ
11/14(水)	夕刻帰国、解散



2日目 11月8日(木)



▶ ナイアガラの滝

時差ボケを引きずってトロント観光です。トロントの緯度は日本でいえば北海道旭川市よりも少し北のあたりで、この時期の日中最高気温は6〜7℃。幸い天気恵まれ、初冬の澄んだ快晴の下、ナイアガラの滝やトロント中心部のCNタワーからの雄大な眺めを堪能しました。



3日目 11月9日(金)

いよいよロイヤル・ウィンター・フェア見学です。ロイヤル・ウィンター・フェアは世界最大の農業博覧会で、広大な会場では共進会以外にも色々な催しが開かれます。北米各地から集められた農産物の展示や、ホースショーやドッグショーなど、どこも大賑わい。出展ブースも様々で、酪農畜産関連のブースはもちろん、馬術用品店、衣類やアンティークの出店、トヨタの新車展示などもありました。アルパカやヤギと触れ合えるミニ動物園も開かれ、まさに収穫祭といった様相です。訪れる人々も、親子連れやスクールバスでやってきた子供の一団、授業の一環か牛のスケッチに取り組み学生風など様々。「人種のモザイク」と呼ばれるほど多彩な移民の街トロントだけあり、会場では多種多様な老若男女が祭りを楽しんでいました。



▲ 会場内さまざまなブースがある

▶ アルパカ別売りの餌をあげられる。



共進会はホルスタインだけでなく、規模は控えめですがジャージーやブラウンスイスなどの部門も設けられ、数多くの牛が出品されていました。控え牛舎も自由に歩き来でき、本番前のピリピリした空気が味わえます。牛以外にも羊やモルモットの品評会も開催されていました（良し悪しはわかりませんが）。ホルスタインの共進会は世界最高峰の名に恥じず、どの部門の牛も実にすばらしい仕上がりでした。共進会のオオトリを飾るのはグラントチャンピオン決定戦です。各部門から選出された1位・2位の牛の中から最も優れた一頭が決定されます。審査が始まり会場の照明が落とされると、華々しい音楽が流れ、鮮やかなライトが踊ります。スポットライトに照らされ、会場に牛たちが入場してくると会場から拍手で迎えられました。審査は3名の審査員によって行われ、それぞれが十分観察した後、合議にかけられます。審



4日目 11月10日(土)

朝起きたら部屋が一面水浸しでした。原因は風呂の蛇口の閉め忘れ。幸い軽い罰金で済みましたが、もう少しひどかったら100万円単位での賠償請求が来ていたと聞き、背筋が凍りました。海外旅行の際は物損保障付の保険に入ることをお勧めします。まず1軒目は「サミットホルム牧場」。経営はデーブ氏と兄弟のカーン氏、カーン氏の息子の3人での協同経営で、当日はデーブ氏に案内をいただきました。飼養頭数は650頭、うち300頭が搾乳牛で、搾りは1日3回、16頭ダブルのミルクングパーラーで行われます。年間個体乳量は12,824kgで、2002

査委員長が講評を述べ、グラントチャンピオンを発表すると、会場は大きな拍手と歓声に包まれました。



◀ グラントチャンピオン審査中

▶ グラントチャンピオン記念写真





◀ デーブ氏(右)

サミットホルム
搾乳風景 ▶



サミットホルム 牛舎内



サミットホルム 牛舎外観



ひときわ大きな集乳車

年には、もつとも酪農業界に貢献した酪農家に贈られる称号のマスターブリーダーに推奨されています。労働人員はこの他に搾乳パートを2名加えた5名です。農場はトウモロコシとアルファルファを200エーカーずつ作付けていますが、農場作業に関してはすべて業者に外注し、牧場の人員は牛にのみ専念しているといえます。「牛は好きだが、(農場用の)機械は嫌いだ」とデーブ氏は笑います。牛舎はフリーストールで、牛群は分娩間近の牛や産次数で5つに分けられています。牛床には砂を用いており、バクテリアの繁殖が抑えられ蹄や乳房の事故がほとんど起こらないとのことです。カウコンフォートに配慮した飼養は牛の状態に直結しており、中には12産を超え、累計乳量13万kg達成する牛もいました。清潔な牛舎の中で十分なエサを与えられた牛はどの個体もリラックスしており、よく手入れの行き届いた牧場に感心させられました。

デーブ氏のご厚意で事務所の一室をお借りし、昼食の弁当(久しぶりの日本食!)を食べた後、辞して次の目的地へ移動します。2軒目の牧場はサミットホルム牧場からバスで1時間ほどのところにある「克蘭デル&克蘭ホルム牧場」。経営は主人夫妻とその息子のジェームズ氏で、当日はジェームズ氏に案内をいただきました。1950年にジェームズ氏の祖父が牧場を買い取ったのが牧場の始まりで、現在の飼養頭数は100頭。比較的小規模ではありますが、丁寧な飼育された牛は良質で、過去にはロイヤルウインターフェアに出品し、入賞した牛もいたそうです。農地は400エーカーで各種牧草や穀物を栽培しています。こちらも農地作業は外部に委託しているとのこと。搾乳舎は古いタイストール式牛舎を改装したもので、8頭ダブルのミルクパラーが設置されています。



▲ 搾乳舎 作業は一人で1時間程度とのこと



◀ ジェームス氏



フカフカの牛床 牛が全く動じない



明るい牛舎 壁が薄いので冬はとても寒いとのこと

ます。屋根は低く設置されており、換気しやすく暖房が利きやすい造りのため、通年適温を保っています。2008年に新設されたフリーストール式牛舎は天井が高く、風通しの良い作りです。牛床にはおが屑と石膏ボードを混ぜたものが採用されています。牛床は日に2回トラクターで攪拌され、2週間おきに取り換えられます。牛たちの住みやすさを第一に考えた結果とすることで、中に入ってみるとまるでクッションが敷いてあるかのようにフカフカです。牛舎を新設してからは足回りの事故もなくなり、体細胞数も下がったといえます。牛は人に良く慣れており、見知らぬ東洋人の一団が牛舎に入っても動じることもなく反芻していました。

二つの牧場を見学しましたが、どちらも牛をととても大切にしているのが印象的でした。カウコンフォートに気を配った設備に、注意深く愛情あふれる飼養の形態は(農地作業の有無を別としても)見習う点は多いと感じました。

※後編は来月号に掲載

(全酪連 札幌支所 竹島啓介)

|| 平成24年度 ||

全酪連会員担当者研修会

11月9日(木)に全酪連本所で、11月16日(金)に福岡市内で平成24年度会員担当者研修会を開催、2講演を実施しました。



全国農業会議所
阿久津考査役

前半は全国農業会議所 農政・企画部の阿久津 正考査役による「農業経営継承事業の現状と課題について」の講演が行われました。全国農業会議所が平成20年度より行ってきた第三者への農業経営継承事業は、経営継承者と経営移譲希望者とのマッチングを図る事業となっており、登録↓経営継承希望者と経営移譲希望者とのマッチング(顔合わせ・事前体験1〜2週間程度)↓移譲希望者宅にて実践研修↓研修修了後、経営継承の流れとなります。現在までに実践研修を実施したのは69件、そのうち酪農業については現在までに15件(経営継承6件、研修中止4件、現在研修中5件)となっています。成功事例、失敗事例を紹介していただきながら、「最も重要なのは、継承希望者と移譲希望者との綿密な話し合いである。失敗すれば移譲が間に合わず廃



東日本会場(本所)

業してしまったり、会社を辞めて研修に入った継承希望者の人生が狂ってしまう」と成功のポイントを説明していただきました。後半は、本所では丸紅株式会社 穀物部 穀物マーケティング課 白木 友宏課長代理、福岡市内では株式会社カーギルジャパン 穀物油脂本部 バルクグレイイング ループ 金子 学統括部長によるトウモロコシ相場を中心とした「世界の穀物情勢について」の講演が行われました。

アメリカさえ注視すれば良かった過去に比べ、現在はブラジルやアルゼンチンなどの南米やウクライナなど、目から鱗の話が盛りだくさんであり、トウモロコシ市場を俯瞰で眺めることができる講演となりました。

当日提出いただいたアンケートでは、「経営継承事業は、地域性や準備資金、双方の希望者の有無等の問題が多大にあり、難しそうだ」などの意見や「世界の穀物情勢から、日本の位置づけが分かった」など、様々な意見をいただくことができました。

本会では、会員組合の機能強化を目的に、このような会員担当者研修会を毎年開催していま



丸紅(株)
白木課長代理

イナなども輸出量を伸ばしてきていることや、米国のバイオエタノール政策の米国内外への影響、また今後の人口増加により中国が輸出国から輸入国となり得ることなどを説明していただきました。バイオエタノールを作ることによる米国内での利益は、一石三鳥にも四鳥にもなるという話など、目から鱗の話が盛りだくさんであり、トウモロコシ市場を俯瞰で眺めることができる講演となりました。



西日本会場(福岡市内)

す。今回のアンケート結果をもとに、会員の皆様がより参加しやすく、必要とされる研修会を今後とも開催してまいります。

なお、当研修会のご質問、資料請求のご希望がございましたら、全酪連指導・企画部(03-5931-8003)もしくは各支所指導組織課までお問合せください。



(株)カーギルジャパン
金子統括部長

家族の輪・地域の輪 みんなが集まる 明るい牧場を目指して

12月の嫁 福島県酪農業協同組合 山田 克枝さん

「嫁が語る酪農の魅力」第11弾として、福島県酪農業協同組合の山田 克枝さんにお話を伺いました。



嫁
婿
が
語
る

酪農の魅力②

—山田牧場の概要と克枝さんの担当を教えてください。

私の住む石川町は福島県の中通り南部阿武隈高地の西側に位置し、空の玄関口福島空港に隣接しております。そこに我が家の山田牧場があり

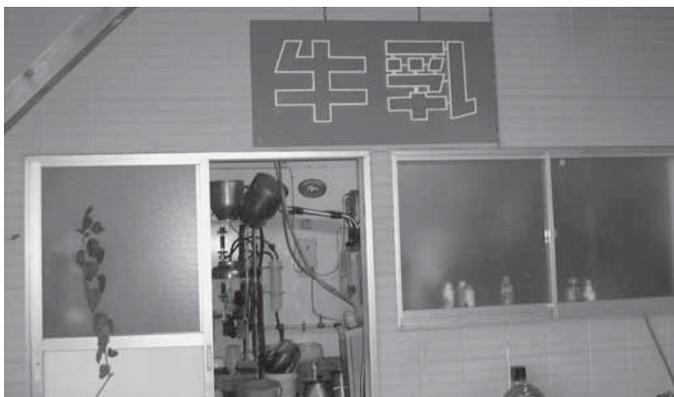


▶山田牧場外観

ます。家族は主人の祖母（ハルヨさん）、両親（英重さん、ヒロ子さん）、主人（英司さん）と私、そして三人娘（莉子さん、真子さん、凌子さん）の八人家族です。平成9年に牛舎を新築し、44頭の搾乳牛の対尻式牛舎を建てました。現在経産牛44頭、育成牛23頭、計67頭を飼養しています。牧草畑は7ha作り、イタリアン、オーチャードを主に作っています。昨年原発事故により全ての畑を更新し来年の春には収穫し、検査合格すれば今まで通りに給与することが出来ます。私の役割は搾乳と給餌です。平成12年に結婚後すぐに出産・育児と主に家事をしていましたが、子供たちも大きくなり5年前から給餌と搾乳を担当しています。

—ご主人との出会いから結婚までの経緯について教えてください。

バレーボールを通して主人と出会いました。誰にでも優しく気さくに声をかけ、そしていつも笑顔。そして何より筋肉モリモリの腕に惹かれ、出会ってすぐに「私はきっとこの人と結婚するんだな」と確信しま



▶山田牧場パルク室



山田牧場看板

した。非農家で牛も見たこともないまま迷いもせず一年後には結婚をしました。

——酪農に対する思いと苦勞したことを教えてください。

結婚前はエレベーター会社で事務をしていました。牛を見る機会はありませんでした。主人と出会い、初めて牛を見た時は声も出ないくらいびびりました。まずは



▶三女凌子ちゃんお手伝い

牛に慣れることから始まりました。又、生活のリズムが違うので慣れるまでが大変でした。子育て中は仕事を手伝う事がなかなか出来ず、みんなが忙しく動いているのに手伝えなにもどかしさ…。自分はどうすればいいのか悩んでいた時期もありました。子供が大きくなった今、自分が出来る範囲で一生懸命手伝いたいと思います。酪農の仕事は生き物相手なので休みがほとんどなく、体力的にも精神的にもつらい時があります。しかし、仔牛の誕生など他ではなかなか経験する事が出来ない感動を味わう事が出来ます。仔牛も無事に生まれ、親牛も元気な時は本当に幸せな気持ちになります。1つの命にみんなで向かい合い、そして育んでいき命の大切さなど日々学んでいます。

——克枝さんが思う酪農の魅力について教えてください。

家族が1つになって仕事出来る事でしょうか…。何をやるにしても家族で話し合い役割などを決めていく。話し合いをする事により、仕事もスムーズに進み家族の絆も深まっていくような気がします。

——今後の夢について教えてください。

今後の目標としては、まず家族みんなが健康に過ごしていける事が一番です。そして4月から中学1年、小学4年・1年になる子供達の成長を家族みんなで見守っていきたいです。又、牛舎では四季折々の花を咲かせ眺めながらお茶を飲んだり、時には地元の方々や酪農仲間とバーベキューを楽しんでいます。これから沢山の方々とふれ合いながら沢山おしゃべりの花も咲かせたいです。

誰でも気軽に訪れられる、そんな楽しく明るい牧場にしていくのが今の私の夢です。

——最後に、ご主人の英司さんより克枝さんに一言お願いいたします。

いつも家庭の事、子供の事、それに牛の事、やりこなしてもらってありがとうございます！本当に感謝しています。これからも笑顔の絶えない家庭を作っていきましょうね。



▶英司さん、克枝さん、凌子ちゃん



第41回大会で総司会を務めた二若副委員長

1人でも多くの
仲間を作ることは、
お金では買えない財産です

■プロフィール

名前：二若 信彦（44歳）
 役職：西日本酪農青年女性会議委員長
 平成20年8月～3期目：5年目
 全国酪農青年女性会議副委員長
 平成22年8月～2期目：3年目
 岡山県真庭市蒜山でジャージーのみ飼養
 経産牛35頭、哺育・育成10頭

今回は、全国酪農青年女性
会議二若副委員長にお話を
伺いました。

就農の経緯

普通科高校を卒業後、地元の農協に就職しました。しかし、蒜山以外にも視野を広げたいとの想いから、11年働いた農協を退職し、長距離のトラック運転手になりました。全国各地を走ることで、見聞を広めることができ良い経験になりましたね。その後、両親が60歳を過ぎたこともあり、平成18年に実家の酪農を継ぎました。自分に酪農の知識がないた

め、助言は何でも聞くというスタンスでしたら、全酪連の体系通りに飼養していました（笑）。一貫して同じ飼料を使うことの重要性は感じます。

酪青女に関わるきっかけ

若いうちから就農していなかった分、地域に貢献して交流を持たないといけないと思ひ、平成20年におかやま酪農協青年部の委員長になりました。その年に地域会議の役員にもなり、2年後には全国の役員になりました。スピード出世ですね（笑）。

西日本会議の特徴は？

西日本会議だけで開催している「酪友フォーラム」です。毎年100～150名



が集まるこの会議は、今年で19回目を迎え、毎年講演やグループディスカッションを行っています。女性も多く活気のある会議です。第40回全国大会が中止になったときに札幌で酪友フォーラムが出来た



第17回酪友フォーラム グループディスカッション

今回最優秀賞を受賞された北海道の塩野谷さんが、農林水産祭で内閣総理大臣

全国大会に対する想いを 教えてください

のも、先輩方の築いてこられた西日本の酪友フォーラムがあったからだと思いません。また、西日本会議の機関誌「なかよし」も年に1回発刊し、全国大会等1年間の活動についての記事を載せています。また、「父の日に牛乳(ちち)を贈ろう！」キャンペーンで毎年6月に牛乳配布・贈呈等を行っています。6月だけでなく常に消費拡大を呼びかけていきたいと考えています。岡山では、地元ラジオに月に2回出演して、牛乳乳製品料理の紹介コーナーを担当されている方もいらっしゃいますし、活動を広げていきたいですね。



搾乳作業中の二若副委員長

用していただければ嬉しいです。

現在、酪青女の会員は8,200名弱ですが、1戸の農家さんで青年部・女性部に所属されている方もいらっしゃるの、実際は5,000〜6,000戸ぐらいでしょうか？やっぱり目標は10,000戸ですね！酪青女が、乳牛を飼われている方のコミュニケーションとして広く活用していただければ嬉しいです。

今後の酪青女の目標

賞を受賞されたことは、本当に誇りに思います。今までやってきたこの全国大会が認められた気がしました。
1人でも多くの仲間を作ること、お金では買えない財産だと思おうので、ヘルパーをとつても(全国大会に)行く価値はあると思います。家を空けることで家族に迷惑をかけていますが、それと引き換えにしても得るものが大きいと感じます。皆さん、仲間を作りに行きましょう！



塩野谷さんは北海道虻田郡洞爺湖町

総理大臣賞に輝きました。

勤労感謝の日である11月23日(金)に、明治神宮会館にて第51回農林水産祭式典が開催されました。郡司彰農林水産大臣の挨拶の後、各受賞者の表彰が行われました。

農林水産祭にて 塩野谷孝二さんが 内閣総理大臣賞を受賞！



全国酪青女発表大会時の塩野谷さん

にて経産牛50頭規模の経営を営まれており、平成11年から放牧への取り組みを開始されました。コンサルタントの指導や土壌診断に基づく施肥設計など、様々な工夫により高品質な自給粗飼料、放牧草を生産することで、放牧酪農としては極めて高レベルの秘乳量を達成しています。低コスト生産により経営数値も優れており、省力的でゆとりのある経営を実践されています。また酪農教育ファームの認証を取得し、毎年多くの研修生を受け入れていることや、乳製品の加工販売など6次産業化の取組みによる、地域や消費者との結びつきについても高い評価を受けました。

札幌
支所発

平成24年度秋季酪農研修会開催される — 北海道酪農青年女性会議 —

平成24年11月15日(木)に、札幌市中央区のエルプラザにて北海道酪農青年女性会議(引頭玉枝委員長)主催の平成24年度秋季酪農研修会が開催されました。今年度は雪印メグミルクより栄養士の伊澤沙織先生を招いての料理研修会です。当日は12名が参加しました。メニューはハッシュドビーフ、ポ

テトサラダ、ホエードリンクの三種類。どれも乳製品を使ったもので、マヨネーズの代わりに水切りヨーグルトを使うなど、工夫されています。どれもおいしく出来上がり、参加者の中からは「家でもまた作りたい」といった声が上がっていました。

(T.K)



◀ 挨拶を述べる引頭委員長

調理風景 ▶



集合写真

仙台
支所発

平成24年度秋季酪農研修会開催される — 東北酪農青年婦人会議 —

11月13日(火)～14日(水)、東北酪農青年婦人会議(半澤善幸委員長)主催の平成24年度秋季酪農研修会が盛岡市繋温泉「愛真館」において開催されました。

この研修会は、毎年この時期に開催されており、東北各地域より総勢57名が参加しました。

今年は、料理家・管理栄養士・フードコーディネーターの小山浩子氏に「ミルクを科学する～牛乳・乳製品の可能性と食品開発論～」と題して講演して頂きました。その後、火を使わなくても出来るレシピということで、とうもろこしのミルクポター



▲ 挨拶をする半澤委員長

ジュース・モッツアレラチーズと生ハムのくるくるサラダ・ベリーのクレームダンジェの3品を調理して頂き、みんなで試食しました。

▶ 調理中の
小山浩子先生



◀ 庄ヶ畑の
「さんざ踊り」

また、懇親会では岩手中央酪農協さんのご紹介による庄ヶ畑芸能振興会による「さんざ踊り」が披露され、太鼓とカネの音に誘われて隣の会場の泊まり客も見物に訪れ、その後、参加者が宴会場を輪になって踊りました。

(N.T)

仙台
支所発

第30回福島県ホルスタイン共進会開催

グランドチャンピオン

T・ユニオンデーリイ

リザーブグランドチャンピオン

成田昌弘さん

準リザーブグランドチャンピオン

足利秀忠さん

福島県乳牛改良推進協議会（会長阿部正一）主催による第30回福島県ホルスタイン共進会（農林水産祭参加事業）が、10月20日（土）本宮市の県家畜市場において約200人の参加を得て開催されました。

当日は、天候にも恵まれ共進会日和となり、日頃から手入れの行き届いた50頭の愛牛が県内各地より出品され、3年ぶり第30回という記念の大会で繋ぎ場においても入念な手入れがなされ、会場全体が熱気であふれる大会になりました。

本大会を盛り上げていただきます審査員長には、福島県農業総合センター畜産研究所長 遠藤孝悦氏、審査員には（社）日本ホルスタイン登録協会の大西信雄氏、アシスタント審査員に福島県農業総合センター畜産研究所酪農科長 小田康典氏を迎え、未経産4部門、経産3部門の計7部門に分かれ慎重に審査が行われました。

また、大会に花を添えるデーリークイーンには、全農福島県本部の鈴木裕子さんと全酪連酪農技術研究所の堀越頼子さんのお二人が、笑顔で和やかに努めて下さいました。今回は審査員の粋な計らいで、各部チャンピオン牛とデーリークイーンの記念撮影もあり終始和やかな雰囲気にも包まれた大会となりました。

各部厳正な審査の結果、見事グランドチャンピオンの栄冠に本宮市のT・ユニオンデーリイ所有の「ユニオンデール タレント コーリー」号が輝き、農林水産大臣賞を獲得、リザーブグランドチャンピオンには猪苗代町の成田昌弘さん所有の「フリーファーム バツカーン レッドロツグコンビ」号が選ばれ、農林水

▶
グランドチャンピオン
「ユニオンデール
タレント コーリー」号
T・ユニオンデーリイ



◀
リザーブグランド
チャンピオン
「フリーファーム
バツカーン
レッドロツグコンビ」号
成田昌弘氏

▶
準リザーブグランド
チャンピオン
「バンダイデー
ゴールドウイン
アーチス」号
足利秀忠氏



産省生産局長賞を獲得、準リザーブグランドチャンピオンには、磐梯町の足利秀忠さん所有の「バンダイデール ゴールドウイン アーチス」号が選ばれ、農林水産省東北農政局長賞を獲得しました。

今回は記念大会の特別企画としてジュニア、レディースリードマンコンテストが開催され、レディース部門では木目澤初実さん、ジュニア部門では大竹美保ちゃんが最優秀リードマン賞を獲得しました。

さらに、会場内には多くの方々から心のもった復興応援メッセージ・復興応援ありがとうメッセージが掲示され、明日への希望をつなぐ心の交流の場ともなりました。

本大会開催には県をはじめ関係団体、各メーカー様からのご後援やご協賛を賜り、盛大に記念大会を開催できましたことに心より感謝を申し上げます。（W.H）



▲ 3年ぶりに開催された「第30回福島県ホルスタイン共進会」

東京
支所発

平成24年度全酪連東京支所
乳用種経産肥育牛枝肉共励会 開催

11月17日(土) ㈱全日本農協畜産公社(松本洋幸 代表取締役社長)において平成24年度全酪連東京支所乳用種経産肥育牛枝肉共励会が会員職員、関係者等総勢20名が出席し盛大に開催されました。

出品された32頭は、前日に審査委員の(公社)日本食肉格付協会関東支所宇都宮事業所 菅原雅彦所長により格付け及び入賞牛の選定が行われました。

当日の共励会では、菅原所長を講師として、筑西食肉センターにて枝肉を見ながら入賞牛枝肉の審査講評や枝肉の格付方法、買参人が評価する枝肉等々の研修を行い、会員職員の皆様も熱心に質問をされていました。

研修終了後に(株)全日本農協畜産公社に会場を移し、表彰式を行いました。入賞者は、最優秀賞：桃沢明氏(伊那酪農協) 優秀賞1席：石田精一氏(ひので酪農協) 優秀賞2席：海老原哲夫氏(酪農とちぎ県南支所) 優良賞1席：大関一男氏(酪農とちぎ那須高原支所) 優良賞2席：飯田祐三氏(ひので酪農協) 優良賞3席：

(有)岡田牧場(酪農とちぎ県南支所)です。

審査委員の菅原所長より、今回の出品牛は肉付きが良く体型のしっかりした肉量豊かな個体がそろっていて、全体にしっかり飼い込まれた個体が多かった。肉質「3」等級に該当するものがなかったのは残念だが、歩留等級「B」が全体の53%と前回の19%を大きく上回り、ロース芯面積も平均39.2cmと前回より2.2cm大きくなっているのは好結果である、との講評を頂きました。

経産肥育牛は、皮下脂肪を白上がりには上げることが消費者、流通業界のニーズに呼応し価格メリットが出ることから、酪農経営から必ず生産される経産肥育牛の付加価値を少しでも高めるために、今回の枝肉共励会が参考となり生産者の皆様の酪農経営の一助になればと願っております。(N.H)



◀ 審査員の日格協 菅原所長



◀ 枝肉評価の研修

福岡
支所発

第40回全国和牛共進会会場にて
牛乳消費拡大運動を展開

— 長崎県酪連 —

去る10月25日(木)～29日(月)に長崎県佐世保市で開催された第10回全国和牛能力共進会会場において、長崎県酪農業協同組合連合会(山下俊忠代表理事長)が牛乳消費拡大PRブースを出展しました。

同共進会は期間中予想を上回る48万5千人の来場者が訪れました。長崎県酪連がブースを出展した佐世保メイン会場は審査会場ともなっていたことから特に多くの来場者が訪れました。



▲ 牛乳試飲の様子

取材に訪れた28日は日曜日で、晴天にも恵まれ、開場時間前から家族連れなど多くの来場者が訪れ、会場内は大変な賑わいとなりました。

ブースでは、長

崎県産牛乳の試飲、骨密度測定、そして九州生乳販連で作成した消費拡大リーフレットの配布等を行いました。牛乳試飲と骨密度測定は大変好評で、それぞれのコーナーにはお客さんの長蛇の列が出来上がっていました。また九州生乳販連のイメージキャラクター“ミルとミク”がデザインされたリーフレットは子供たちにも大好評でした。

清々しい秋晴れの空の下、牛乳を飲みながら笑顔で語らう家族連れの姿、そしてブース内では長崎県酪連、そして応援に駆け付けた九州生乳販連の職員の方々が慌ただしい中にも笑顔で消費拡大に取り組んでいる姿が大変印象的でした。

(Y.K)



▶ 長崎県酪連の“ゆるキャラ”



▲ 九販連リーフレット表紙

福岡支所発

「マザーズ市場」開催される — 熊本県酪農業協同組合連合会 —



出品牛の搬入

今回は、熊本県酪農業協同組合連合会（吉田孝壽代表理事会長）が開催する搾乳素牛市場「マザーズ市場」をご紹介します。

マザーズ市場は、県内外で飼養された優良な乳牛や自家生産した肥育素牛を計画的に流通させ、公正な家畜取引市場としての供給基地の確立を図り、安定供給と売買の透明性をもった価格を公表する事により畜産経営の安定向上を図ることを目的に、毎月定期的に開催しており、今年で4年目となります。初生牛市場を毎月2回、搾乳素牛市場を毎月第3金曜日に開催しており、出品牛は熊本をはじめ九州・山口、北海道から幅広く集まります。

取材当日は搾乳素牛市場の開催日で、九州管内から144頭、北海道から16頭が出品されました。セリ会場は九州各県より多くの購買者が訪れ満席状態で、立見も出るほどの賑わいでした。

出品される牛は、市場に搬入しチェックを受けた後、セリ番号ごとに繋留され、購買者が事前に出品される牛を確認できるようになっています。

セリは評価価格より千円単位上乗せによるボタン

せり方式で行われ、購買者には受付時にセリ用のボタンが渡されます。場内のモニターにセリにかかる牛の情報、ボタンを押している人数が一括で表示されます。これらのデータは市場の精算室にあるパソコンに事前に入力され、場内のモニターと連動し表示されます。またセリ結果データも収集が可能で、データはセリ終了後熊本県酪連の事務所に送られ利用する事が出来るようになっています。

このように、あらゆる面においてしっかりとしたシステムが構築されており、出品牛の搬入から売買まで進行がとてもスムーズに行われております。

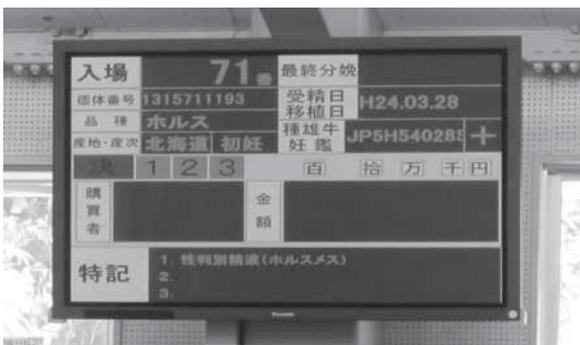
九州の酪農生産基盤を支える重要な役割を担うマザーズ市場。熊本県酪連素畜課の田代邦夫課長は、「熊本県内、そして九州一円の酪農生産者の皆さんが生産された牛を集約、販売の一元化を図ることによって、九州管内の生乳生産基盤の強化を図り、将来的には西日本からも出品者や購買者を集めていきたい」と今後のマザーズ市場の展望について語っておられました。

(Y.K)

マザーズ市場



セリ前の出品牛チェック



▲ セリ場のモニター表示



▲ セリ場内、立見もいます

栄えある秋の叙勲褒章

政府は11月初旬、秋の叙勲・褒章受賞者を発表しました。全酪連関係者からは、次の方が受賞の榮譽に輝きました。心からお祝い申し上げますとともに、今後の益々のご健闘をお祈りいたします。

● 旭日双光章



佐久 一雄氏

前 茨城県酪農業協同組合連合会 代表理事会長
 前 全国酪農業協同組合連合会 理事
 前 美野里酪農業協同組合 代表理事組合長
 前 美野里町農業委員会 会長職務代理者
 現 小美玉市農業委員会 会長
 現 小美玉市農政審議会 副会長
 現 小美玉市都市計画審議会委員 副会長

11/15 都内随所で

TPP反対緊急集会

開催される!

11月15日(木)、超党派議員有志一同、TPPを考える国民会議主催による「11月東アジアサミットでのTPP交渉参加表明を阻止する超党派議員・国民集会」、日本酪農政治連盟(佐々木勲委員長)主催の中央委員会、日本の畜産ネットワーク(事務局・中央畜産会)主催の「TPP阻止畜産緊急要請集会」が東京都内でそれぞれ開催されました。野田総理の18日からの東アジアサミットにおけるTPP参加表明への懸念や、前日の衆議院解散宣言などで政界が慌ただしい状況ということもあり、当日はマスコミも多数出席しての集会となりました。

超党派議員有志一同・TPPを考える国民会議主催の集会では、山田正彦前農林水産大臣を始め10名を超える議員の方々の挨拶がありまして。酪農家からは全国農協青年組織協議会の山下秀俊副会長が挨拶し、「今、先にはTPPでなく震災復興である」と力強く話されていまして。東アジアサミットでのTPP協定交渉への参加表明を断固反対する決議を行い、ガンパローコールで団結しました。

日本の畜産ネットワーク主催のTPP阻止畜産緊急要請集会では、議員約50名の挨拶が行われた後、「東アジアサミットだけではなく、それ以降もTPP参加表明を絶対行わないよう」求める特別決議を行いました。



山田前農林水産大臣挨拶



全国農協青年組織協議会 山下副会長



日本の畜産ネットワーク主催要請集会



▲ TPPを考える国民会議主催集会
ガンパローコール

見て歩紀



▲ 左から石井さん、牧子さん、久平次さん、浩一さん

No.235
中野牧場
新潟県新発田市

地域とつながる循環型酪農を目指して

地域の概況

今回取材させて頂いた中野牧場は、新潟県下越地域にある新発田市に位置しています。新発田市は広大な越後平野の北部にあり、新潟県北部の中核都市です。加治川水系を水源とした良質米（コシヒカリ）の生産が盛んな地域です。江戸時代には新発田藩の城下町として栄えました。現在でも城下町らしい文化遺産を街の随所で見かける、長い歴史を感じられる町です。

雪国新潟の中でも、中野牧場のあ新発田市菅谷地域は降雪の多いところであり、毎年最大2mほどの雪が牛舎を覆います。昨年は特に雪が



牛舎外観



多く、積もってきた雪と屋根から落ちる雪が繋がり、牛舎が雪に包まれてしまったこともありました。夏は温度が35度以上になる日も珍しくなく、湿度も非常に高くなるため乳牛にはかなり厳しい気候になります。そのため、飼養管理には非常に気を遣うことの多い地域です。

中野牧場は、新潟県内の酪農専門農協が合併し新たに設立された酪農にいがた農業協同組合（井上久代表理事組合長・新潟市）に所属されています。酪農にいがた農協の平成24年度10月時点の所属酪農家戸数は107戸、出荷乳量は27,324t（平成23年度実績）となっています。

経営概況

中野家は、お祖父さん、お父さん（久平次さん）、お母さん（牧子さん）、浩一さん、奥さん（美代子さん）、3人の娘さんと牛舎の番犬の奈々子



ジェラート店

ちゃんの、8人と1匹家族です。

中野牧場では、現在浩一さんがメインで管理をされていて、久平次さん、牧子さん、従業員の石井さんの4人で作業をされています。タイストールで成牛60頭を飼養されており、育成牛は30頭（うち20頭程度は県営の妙法育成牧場へ上牧）飼育されています。餌は、配合飼料と輸入乾牧草のほか、稲WCSとデントコーンサイレージ、ロールヘイレージを給与されています。また、牧場から20kmほど離れた月岡温泉にある「月岡わくわくファーム」内でジェ



ロール

ラート店「なかの牧場なちゅらるじえらーと」を営んでおられます。奥さんの美代子さんがジェラート作りと接客を任されています。

牧場の沿革

新発田地域の米農家は、昔から水田の農耕のために牛を飼う事が多かったそうです。昭和41年、久平次さんが高校を卒業された時に酪農を志し牛舎を建てられ、40頭規模の酪農経営を始められたとのこと。平成11年に現在の牛舎を新設されたそうですが、これはお父さんが自ら施工されたそうです。その際管理の充実のため、自動給餌機も同時に入られました。平成13年に浩一さんが新

潟大学大学院自然科学研究

科を修了され、牧場を継がれました。進路に迷いは無かったのかと伺ったところ、「学校を出るとき、あまり悩まずに酪農を継ぐことを決めた。子供の頃から、絶対に酪農を継ぎたいと思っていたので」とのことでした。とても温和で柔らかいお人柄の浩一さんですが、決めるときは決めるという思い切りの良さを感じました。

就農されてすぐ管理を任された浩一さんですが、最初は苦労も多かったと振り返られています。餌代節約のため、乾牧草の給与量を落としたところ疾病が多発してしまいました。安易な経費削減はできない酪農の難しさに肌で感じ、心を入れ替えられたそうです。それでも、最初の4〜5年までは、試行錯誤の連続でした。自動給餌機の回る回数や、乾牧草の種類、他様々…「酪農はごまかしが効かない。常に真剣勝負」。酪農に対する熱い思いを持って、毎日の仕事に取り組まれています。

また、毎日の作業の中では飼槽の掃除をしながら牛の顔を見て観察する時間を必ず取られています。「毎日牛の顔を見て、発情が来っていないか、体調を崩していないかをチェック



牛舎内

クしたい。牛を健康に飼っていくために、この作業ははずせない」とのことです。削蹄も自ら行われていきます。「削蹄師さんを頼んでもいいが、自分で削蹄するのが好きだし、楽しいから自分でやっている」とのこと。牛が好きで、毎日の仕事を楽しんでいらつしやいます。

一昨年から、ジェラート店「なかちゅらるじえらーと」をオープンされ、現在ではお客様が1日500人を超えることもあるそうです。その日の朝搾った自家産牛乳のほか、アスパラガス・カボチャ・枝豆など、



ジェラートメニュー

地元で取れた野菜を使い、美味しいジェラートを毎日作られています。同じく一昨年からは、中野牧場を含む4戸で「新発田コーン生産組合」を立ち上げられ、デントコーン生産に取り組んでおられます。生産組合としても順調に運営されており、出来上がった良質のデントコーンサイレージは、飼養管理に非常に役立っているとのこと。

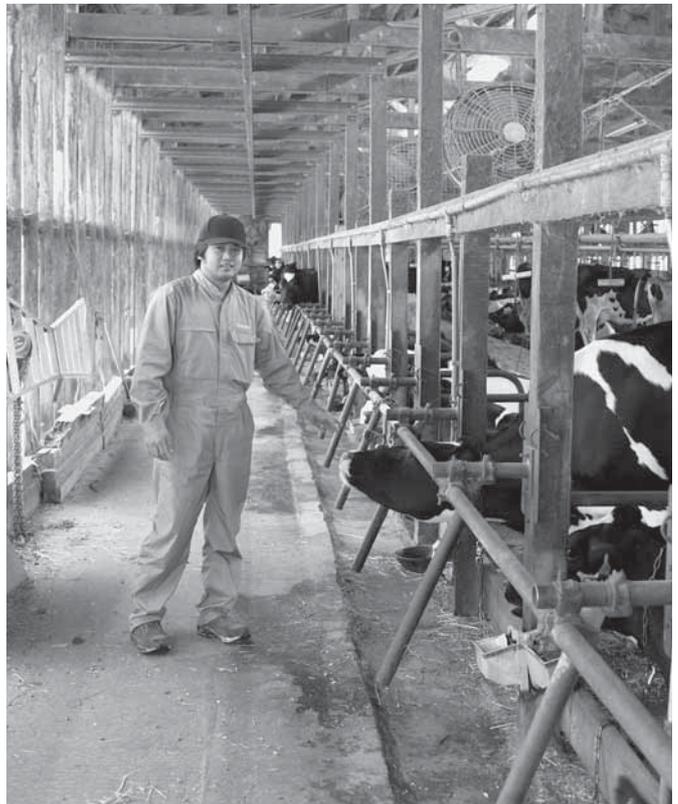
仕事に対して思うこと

仕事に対しては、「つながっていること」を大事にしてもらっていいです。牛舎から出る堆肥を、草地に還元し高品質のヘイレージ、稲WSC S、デントコーン作りの助けとされています。「乳牛から出た堆肥が良い

餌を作り、牛乳を生産し、また良い餌を作り...と、できるだけ地域で循環させられるようにしていきたい」とのことです。また、地域社会に対しても、「牛舎から出るにおいなどで、地域に迷惑をかけてしまうことが多い。だから、消防団など積極的に参加して、地域に貢献していきたい」と語られています。中野さんの所属されている消防団は練習熱心で、23年の新潟県大会では1位を取られたそうです。

ジェラート作りにもこだわりがあります。「自慢の牛乳を新鮮なうちに味わってもらいたいから、牛乳は毎朝搾って持って行く。原料の野菜や果物も、地元の農家さんと直接話して、納得のいく品質のもの、その季節に旬であるものを仕入れている。地元の美味しい農産物は農家さんの顔が見えて安全・安心。多くの人に知ってほしいし、味わってほしい。食べてくれたお客さん、原料を仕入れている耕種農家さん、作っている自分たちも、全員にとってプラスになるようにしていきたい」と、ジェラートについても「つながっていくこと」を目標に日々努力を重ねられています。

「地域とのつながりを持って自分の牛舎で毎日酪農を続けること、物質的にきちんと循環すること、自分で作ったものを楽しんで食べてもら



浩一さん

うこと、全てが大事。誰かが楽しくなかったり無理をしていけば回っていかないし、自分が楽しくなければ毎日続けられない。周囲の人々への思いやりを持って仕事に取り組み、いらっしやる姿は、自分の仕事にも参考にしていきたく考えさせられるものでした。

将来の夢

将来は、「ジェラート店をより大きくして、多くの人に味わってもらいたい」とのこと。「酪農経営の規模拡大についてはあまり考えていない。今は、粗飼料の完全自給ができないか考えている」とのことです。

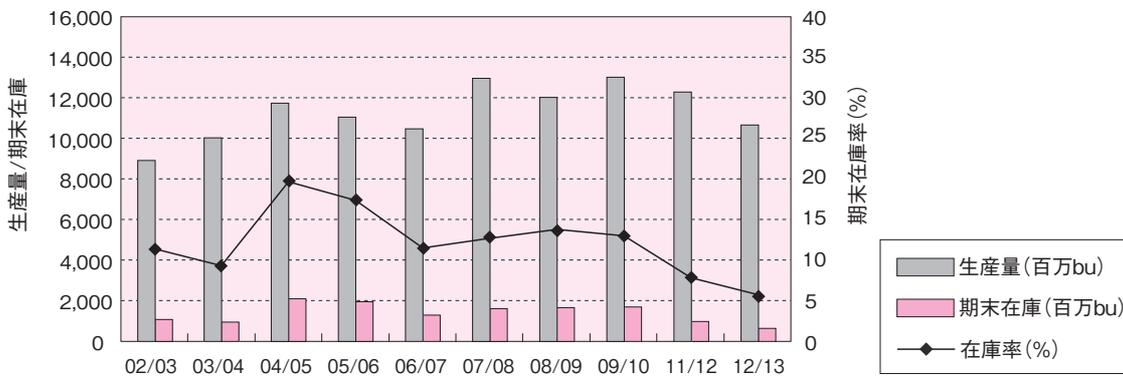
「仕事ばかりで家族サービスができていないので、来年あたり海外旅行に行つてみようかな」と、一人のお父さんとしての一面も見せていただきました。

最後に、ご多忙の中快く取材にに応じてくださった中野浩一さん、中野牧場の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、中野牧場の更なるご発展をご祈念申し上げます。また、取材に協力いただきました酪農にいがた農業協同組合新発田支所の皆様にも感謝の意をお伝えし、取材を終わらせていただきます。大変ありがとうございました。

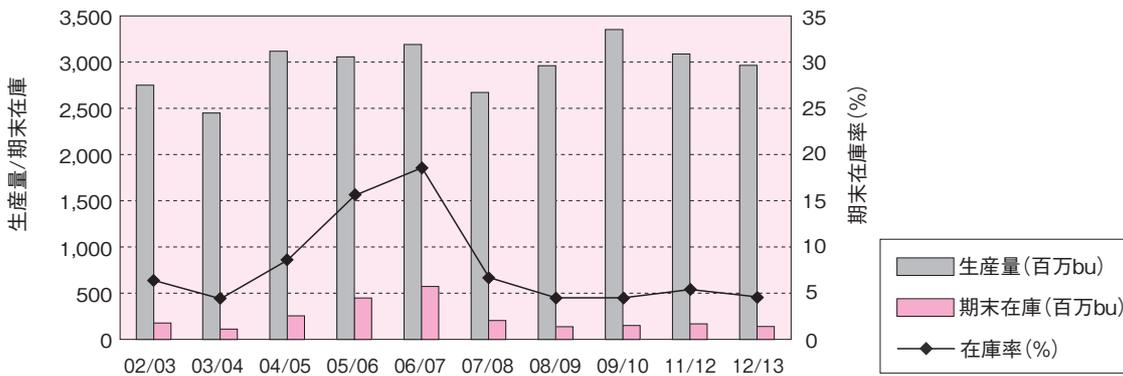
原料情勢 平成24年11月

11月9日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	<p>【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2(147.2)bu/エーカー、生産量123億5,800万(123億5,800万) bu、総需要量125億2,700万(123億2,600万) bu、期末在庫9億8,800万(9億8,800万) bu、在庫率7.9(7.9)%。</p> <p>【12/13年産】 作付面積96.9百万(前月96.9百万) エーカー、単収122.3(122.0)bu/エーカー、生産量107億2,500万(107億600万) bu、総需要量111億6,700万(111億5,000万) bu、期末在庫6億4,700万(6億1,900万) bu、在庫率5.8(5.6)%。</p>
トウモロコシ相場動向	10月末までは大豆相場の上下やファンドの売りなどの影響を受け730～760¢台の間を上下する展開が続いたが、11月に入り、米国大統領選挙においてオバマ大統領が再選され、エタノール政策に変更がないことが確認されると、相場はやや堅調に推移し、700¢半ばで推移している。今後はUS産への需要回帰から堅調な推移が予想されるが、南米では作付時期を迎えており、現地の天候、作柄がシカゴ相場にどう影響するかに注意が必要である。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の12/13年の期末在庫見通しは1億4,000万(1億3,000万) bu、在庫率4.63(4.50)%。予想以上の単収の改善から期末在庫率が改善したことや、南米の天候が順調であることからシカゴ大豆相場は軟調に推移している。国産大豆粕発生量は依然低調だが、需要も減退していると思われ、需給バランスはそれほど崩れてはいない。国産大豆粕がカバーできない需要は輸入大豆粕が補っている状況に変わりはないが、現時点では輸入大豆粕は順調に入船しており、受け渡しに問題はない。現時点のシカゴ相場は南米の天候が順調に推移していくことが前提となっており、今後天候不順となれば米国大豆の期末在庫が少ないことから上昇基調に転じることも考えられる。
槽糠類	フスマの使用割合は高いままであるため、需給は非常にタイト。フスマがどの程度輸入されるかにもよるが、使用量が減らない限り、需給は大きく改善することはないと考える。今後の受け渡しにも注意が必要。 グルテンフィードも発生量が減少している中、需要は堅調なため需給はかなりタイトになっている。ただし輸入は順調に推移しているため一部の港を除いては受け渡しに問題がない見込。
海上運賃	最も荷動きが活発な大西洋での荷動きは、低調ながら冬場に向けて石炭需要増加なども予想され、マーケットは強気調。原油価格は多少軟化したものの燃料価格も高止まりしており、海上運賃の過半数を燃料コストが占めるようになっているため、引き続き底堅く推移していくと見られる。
外国為替相場	【円安ドル高要因】 野田首相の衆議院解散宣言

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成24年11月

北米コンテナ船 フレート	先月号でもご案内の通り、北米の東海岸において10月1日に港湾作業員によるストライキ実施が予告され、西海岸に貨物が集中する可能性が出てきたため、コンジェスチョン・チャージ（混雑に対するチャージ）として\$1,000前後/コンテナ（1ドル78円換算で3,500～4,000円/トン）の導入が発表された。9月21日時点で東海岸でのストライキが90日後に延期となったことで同チャージの導入は見送られたが、協議次第では1月1日付けでの導入が検討される可能性もあるため注意が必要。
ビートバルブ	【米国产】主産地であるミネソタ州とノースダコタ州はあまり早乾傾向ではなかったため、生育は概ね順調に推移。10月から降雨降雪があり、北部で進捗が50%程度と悪くなっているものの、昨年11年産よりも進捗は良いため、ビート大根の12年産単収は過去4年間の平均を上回る23.6st/エーカー程度の見込み。穀物相場が高騰しているため、欧州や日本からも引き合いが増え、引続き高値で推移することが予想されている。
アルファルファ ヘイ	【中東・中国需要動向】 米国产アルファルファ輸出数量を以下の表に示した。09-10年からUAE、中国向けに驚異的な数量の増加で輸出が始められており、今年はオマーン向けにも輸出が始めている。産地でのアルファルファを中心とした乾牧草市場は、日本側が想像している以上に大きく劇的に変化しており、今後の動向には注意が必要である。
	【ワシントン産】コロンビアベーンでは、4番刈の収穫が終了し、アルファルファの収穫は全て終了した。1番刈は60%、2番刈は50%の雨当たり被害を受けた。2番刈から3番刈にかけては、刈取り後の乾燥中に晴天に恵まれなかったため、ノーレイン品も比較的ブリーチ（色あせ）の多いスタックが発生している。また、今年は野菜の豊作によりトラックが逼迫していると一部で伝えられているため、年末に向けてデリバリーが混乱する恐れもあり注意が必要。
	【オレゴン産】クリスマスパーレー、クラマスフォルズともに、収穫はほぼ終了した。2番刈とともに、刈取り後の乾燥中に晴天に恵まれず、比較的ブリーチの多いスタックが発生している。生産効率を考慮BIGベールでの収穫が増えたため、12年産はますます3タイプのプレミアム品の確保が難しくなった。13年産以降も、さらにBIGベールでの収穫が増えることが懸念されている。
	【ネバダ産】1番刈の50%、2番刈の40%が雨当たり被害を受けた。2番刈と3番刈は、生育期に暑くなりすぎず、ノーレイン品は例年に比べて葉量が多めの仕上がりとなっている。この地域では国内向けの需要が多く、近年ではUAE、中国向けにも旺盛な引合いがあるため、BIGベールでの収穫が増加している。
	【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、収穫は全て終了した。PNW産アルファルファの産地価格の高止まりとフレート価格差から、UAEや中国向けはカリフォルニア産の引合いが強く、雨当たり品はUAE向けに多く出荷されているとの伝えられている。輸出向けと国内向けの底堅い需要を受けて、13年産は作付面積が増えることが一部では予想されている。 北カリフォルニアでも、収穫は全て終了している。UAEや中国向けのみならず、日本や韓国からの引合いも強まっている模様。
チモシー	【米国产】ワシントン州では、収穫は全て終了した。1番刈は50-60%程度が雨当たり被害を受けており、近年まれにみる厳しい状況。酪農向けの中間グレード品も馬用に向けているため、酪農向けは中間グレード品でさえも確保が非常に困難な状況である。近年の順調な需要を受け、チモシーは生産コストに対して高く売れており、産地では儲かる農産物として定着しているため、13年産は作付面積が増えることが予想されている。
	【カナダ産】産地では、収穫は全て終了した。レスブリッジでは1番刈の収穫時期に雨当たり被害が発生したためハイグレード品は1%以下、ドライランドでも雨当たりが発生したためハイグレード品の発生量は限定的である。両産地とも、米国产1番刈の状況を受けて、中間グレード品でさえも確保が非常に困難な状況となっており、産地価格は高値で推移している。 チモシーの他に、産地ではキャノーラ（菜種）などの穀類も多く作付けされている。13年産の作付面積の増減は穀類の相場価格によっても変化があると考えられる。
スーダン	【インベリアルバレー産】12年産は、かろうじて雨に当たっていないか軽く雨当たりしたスタックにも、グレードを問わず引合いが集中している。激しい雨当たり品もUAE向けに多く出荷されている模様で、産地価格が下支えされる要因となっている。したがって産地価格については、激しい降雨があった7月よりも、同じサイズ・色のグレードと比較してさらに高騰して推移している。近年の順調な需要を受け、産地では儲かる農産物として定着しており、13年産は早播きスーダンの作付面積が増えることが一部では予想されている。
	【北カリフォルニア産】1番刈の収穫はほぼ終了しており、一部では2番刈の収穫が始まっている。これまで天候については問題なく、比較的良品が発生しており、茶葉の混入も少ない傾向である。インベリアルバレー産の状況から引合いは強まっており、産地価格も昨年よりさらに高騰して推移している。
クレイングラス	産地では、現在5番刈の収穫が終盤を迎えている。1、2番刈は良品の発生が多かったが、3番刈は雨当たりから刈遅れ気味となったスタックも多く、4番刈についても湿度の高い気候が続いたため、ブリーチや茶葉が多めの傾向となっている。早くから11年産の在庫もなく、また3番刈以降の作柄が良くない状況下で、通貨ウォンの対米ドル高や自給飼料不足の影響で韓国向けからの引合いも強くなっているため、産地価格は引き続き堅調に推移している。 12年産のインベリアルバレーの作付面積は10/15時点で前年対比110%であり、近年の順調な需要を受けて、13年産は生産量が増えるという一部では予想されている。
オーツヘイ	【西豪州産】刈取りは終了しており、11月上旬にはほぼ全ての地域でベールリングも終了する見込み。現時点では収穫期に降雨がなかったため、ハイグレード品中心の作柄となっている模様。7月に記録的な降雨不足に見舞われたため、収量は例年よりも減少することが予想されている。10年産の早乾、11年産の雨当たり被害と生産農家は厳しい経営を強いられているため、穀類の転作が多いと予想され、12年産の作付面積は大きく減少していることが予想されている。
	【南豪州産】刈取りは終了しており、11月下旬にはほぼ全ての地域でベールリングも終了する見込み。西豪州とは違い、7月にも例年並みの降雨があったため生育は順調と伝えられていたが、播種時期から局地的に降雨があった影響で、生育状況にバラつきもみられる模様で、収量も例年より少なくなることが予想されている。西豪州からラフトしてきた旺盛な引合いを背景に、12年産の作付面積は同程度か少し増えることが予想されている。
	【東豪州産】ヴィクトリア州でも刈取りは進み、現在50%程度の圃場でベールリングが終了している。南豪州と同様に7月に例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられているが、8-10月は降雨量がやや少なく低温であったため、生育進捗が少し良くない圃場もある模様。南豪州同様、強い引合いから12年産の作付面積は増えることが予想されている。

米国产アルファルファ年間輸出数量(MT) 米農務省海外農務局資料より 2012年は1-8月

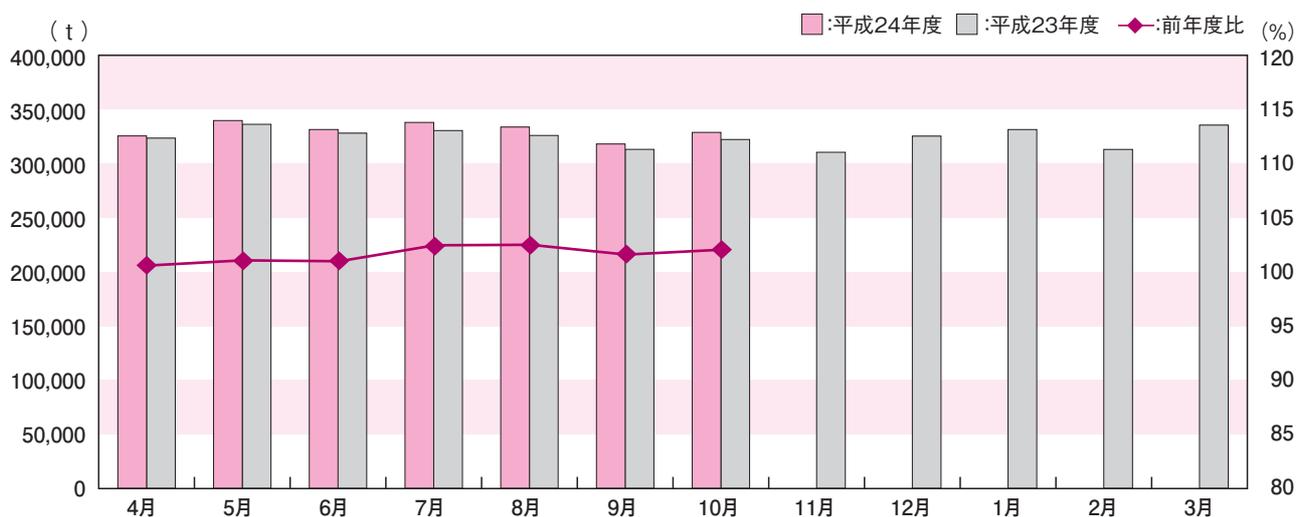
	2008年	シェア%	2009年	シェア%	2010年	シェア%	2011年	シェア%	2012年	シェア%
日本	558,538	60.8	686,148	44.4	540,365	37.4	585,186	36.5	306,582	27.2
UAE	103,419	11.3	495,432	32.0	412,901	28.6	527,456	32.9	329,026	29.2
中国	19,348	2.1	74,985	4.8	140,362	9.7	177,374	11.1	229,876	20.4
オマーン									74,513	6.6
その他	237,578	25.8	290,322	18.8	349,407	24.2	312,385	19.5	185,341	16.5
合計	918,883		1,546,887		1,443,035		1,602,401		1,125,338	

平成24年度（10月） 地域別生乳生産量

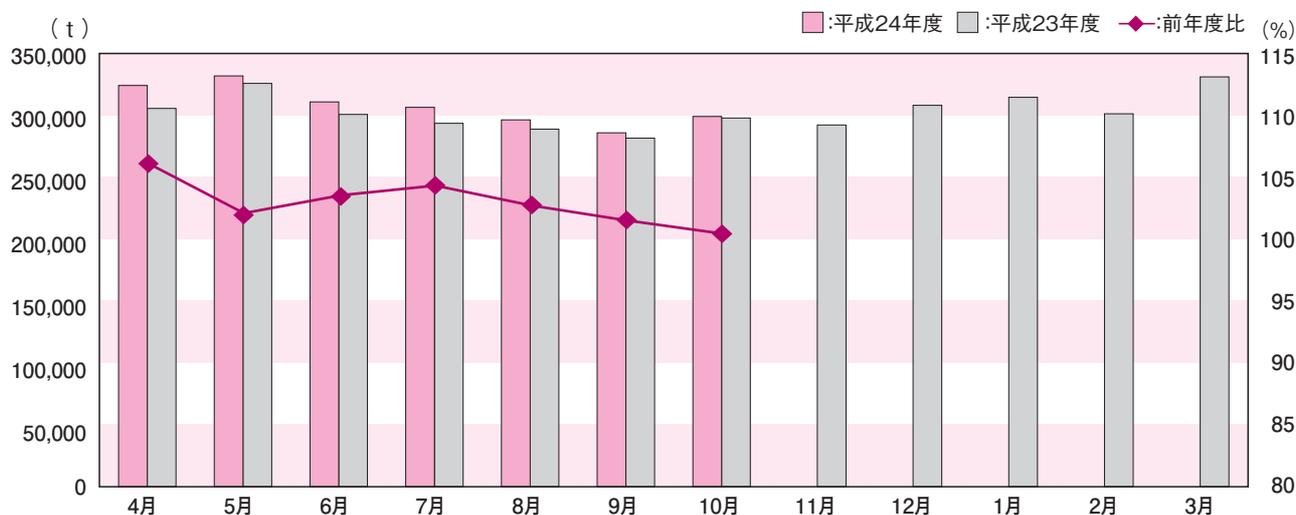
単位：t

	全国	北海道	東北	北陸	関東	東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
23年度 10月	619,843	313,005	47,323	7,707	82,863	10,857	30,317	15,519	23,565	10,534	50,642	2,134
11月	602,420	322,112	50,137	8,147	88,027	11,085	32,618	16,214	24,827	11,039	53,418	2,219
12月	633,207	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
1月	645,750	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
2月	614,082	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
3月	666,347	312,946	49,521	8,382	88,672	10,472	33,129	16,653	24,789	11,472	55,775	2,271
24年度 4月	649,417	335,386	54,152	9,249	97,760	11,542	36,017	18,526	27,139	12,421	61,632	2,523
5月	671,328	325,403	53,039	9,170	96,089	11,050	35,816	18,021	26,669	12,113	59,575	2,472
6月	642,043	339,593	54,297	9,227	98,067	11,665	36,780	18,427	27,627	12,313	60,803	2,529
7月	644,196	331,311	51,516	8,701	91,724	11,050	34,328	17,034	25,850	11,373	56,767	2,389
8月	629,828	337,854	51,884	8,548	90,654	11,038	33,415	16,758	25,390	10,975	55,312	2,368
9月	603,727	333,599	50,211	8,130	87,907	10,950	31,827	16,191	24,820	10,636	53,274	2,283
10月	627,633	317,951	47,759	7,919	84,415	10,377	30,866	15,292	24,164	10,399	52,368	2,217
前年同月比	101.3%	101.6%	100.9%	102.8%	101.9%	95.6%	101.8%	98.5%	102.5%	98.7%	103.4%	103.9%
24年度 累計	4,468,172	2,314,384	358,955	59,851	637,276	76,931	235,630	117,576	179,648	78,690	392,716	16,515
前年同月比	102.2%	101.6%	107.6%	100.6%	102.7%	98.1%	102.0%	100.0%	102.0%	98.7%	103.2%	102.3%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

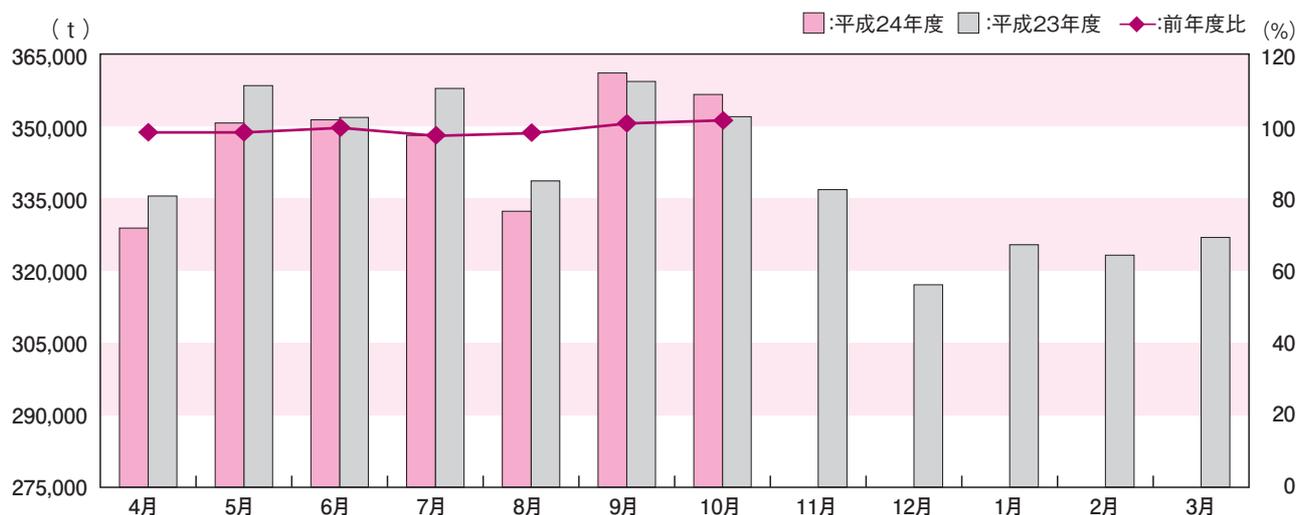


平成24年度（10月）用途別処理量

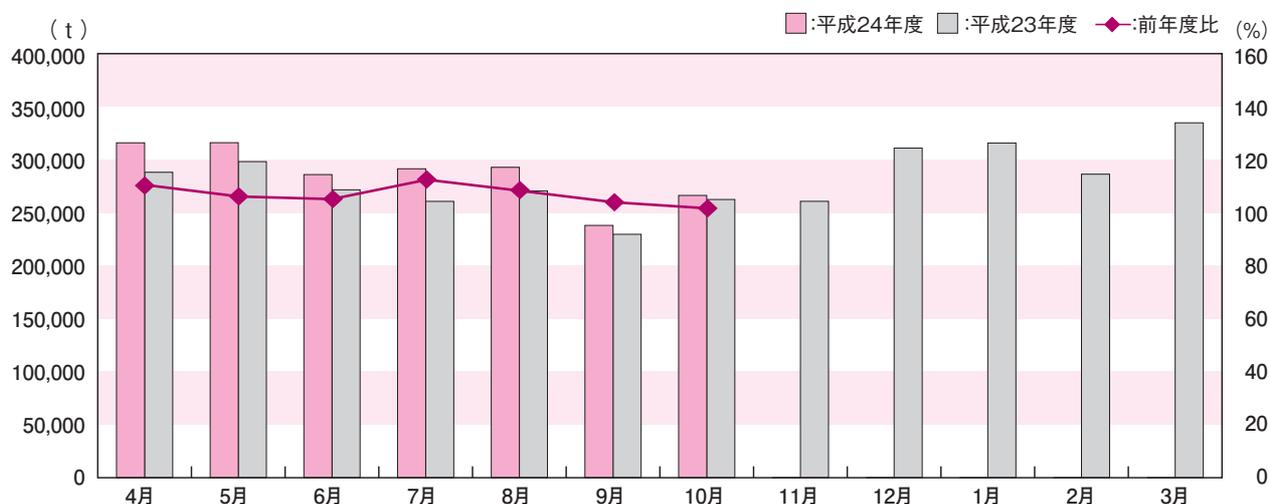
単位：t

	用途別処理量							その他	欠減
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け			
23年度 10月	594,466	359,270	27,189	229,452	32,181	104,967	5,744	1,192	
11月	619,843	351,958	29,171	262,271	38,368	110,428	5,614	1,076	
12月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886	
1月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957	
2月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002	
3月	614,082	323,184	25,383	286,133	45,293	99,089	4,765	961	
24年度 4月	666,347	326,874	28,301	334,591	48,467	109,346	4,882	1,038	
5月	649,417	328,810	27,221	315,743	41,550	105,614	4,864	1,014	
6月	671,328	350,642	23,794	315,862	44,713	107,516	4,824	1,019	
7月	642,043	351,307	22,672	285,771	40,825	106,295	4,965	1,144	
8月	644,196	348,063	23,731	291,244	41,566	111,117	4,889	1,038	
9月	629,828	332,311	23,748	292,625	42,664	106,788	4,892	1,069	
10月	603,727	361,031	27,619	237,824	33,734	106,116	4,872	1,026	
前年同月比	101.6%	100.5%	101.6%	103.6%	104.8%	101.1%	84.8%	86.1%	
24年度 累計	4,468,172	2,428,733	177,813	2,005,168	284,725	754,719	34,271	7,334	
前年同月比	102.2%	99.0%	101.5%	106.7%	102.6%	104.3%	88.7%	95.3%	

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

酪政連活動報告

(平成 24 年 9 ~ 11 月)

日本酪農政治連盟

9/21	<p>TPP 対応検討協議会 (幹事長)</p> <p>◆ TPP 参加阻止活動等に関する協議</p>	11/ 7	<p>自民党総合農政・貿易調査会・TPP 参加の即時撤回を求める会合同会議 (幹事長)</p> <p>◆ TPP 関係国との協議状況の役所ヒアリングと質疑応答</p>
9/28	<p>BSE 対策の見直しを考える学習会 (幹事長ほか)</p> <p>◆ プリオン評価書案の講演と質疑応答</p>	11/13	<p>TPP を考える国民会議主催意見交換会(委員長、幹事長ほか)</p> <p>◆ 識者、賛同団体、国会議員等による意見交換</p>
10/ 4	<p>東京電力廣瀬社長への面談要請 (委員長、幹事長ほか)</p> <p>◆ 岩手、宮城、福島、栃木 4 県の JA 組合長を中心に要請</p> <p>◆ 特に損害賠償に係る東電支払いの迅速化を要求</p>	11/15	<p>自民党総合農政・貿易調査会・TPP 参加の即時撤回を求める会合同会議 (委員長、副委員長、幹事長ほか)</p> <p>◆ TPP 阻止に係る団体要請</p>
10/ 4	<p>平野復興大臣への面談要請 (委員長、幹事長ほか)</p> <p>◆ 被災地の現況報告、復興に向けての対応の迅速化等を要請</p>	11/15	<p>三役会議、中央委員会</p> <p>◆ 野田首相の TPP 参加表明を阻止する緊急集会</p> <p>◆ TPP 参加を阻止する緊急要請を決定</p>
10/10	<p>自民党農林部会、総合農政調査会等合同会議(幹事長ほか)</p> <p>◆ 配合飼料高騰対策等に関する報告、質疑応答</p>	11/15	<p>TPP を考える国民会議主催集会へ参加</p> <p>◆ 野田首相の TPP 参加表明を阻止する超党派議員、団体等の集会</p> <p>◆ 決議文決定</p>
10/22	<p>三役会議・常任中央合同委員会</p> <p>◆ 当面する諸課題(TPP、配合高騰、25 年度予算等)について研修会形式で開催</p> <p>◆ 会合終了後、吉田副大臣他への要請活動</p>	11/15	<p>TPP 阻止畜産緊急要請集会に参加</p> <p>◆ 日本の畜産ネットワーク(102 団体)主催</p> <p>◆ 特別決議を採択</p>
10/24	<p>TPP を慎重に考える会勉強会 (幹事長ほか)</p> <p>◆ USTR カトラー代表補来日時面会概要の件</p>	11/21	<p>自民党農林部会・総合農政・貿易調査会・農政推進協議会合同会議 (副委員長、幹事長ほか)</p> <p>◆ 平成 25 年度税制改正に関する団体要請</p>
11/ 1	<p>自民党農林部会、農政推進協議会・合同会議(委員長、幹事長)</p> <p>◆ 平成 25 年度酪農政策・予算確保に係る要請</p>		

お知らせ 節電の数値目標について

政府は、11月上旬、今冬の電力需給対策について、北海道は「△7%以上の数値目標付」の節電を、それ以外の地域では数値目標を伴わない節電を要請することを発表しました。

詳しくは、経済産業省のHP等でご確認ください。

<http://www.meti.go.jp/>

全酪連・酪農セミナー2013開催のご案内

“強化”哺育パートⅢ ～理想的な子牛の哺育システムと長期的な影響～

全酪連は、2013年2月にコーネル大学畜産学部准教授マイク・ヴァンアンバーグ博士を講師に迎え、全国4会場にて、酪農セミナー(平成24年度)を開催いたします。前回の“強化”哺育セミナー(2007年)から7年が経過しました。この間、更に蓄積された情報を整理して紹介する予定です。また、セミナーとは別に、指導者・技術者の皆様のために最先端情報をご紹介するワークショップも計画しておりますので、是非ご参加ください。



マイク・ヴァンアンバーグ博士
(コーネル大学畜産学部准教授)

講師略歴

1984年
オハイオ州立大学卒
1995年
コーネル大学にて博士号取得
1995-2002年
コーネル大学畜産学部 助教授
2002年-現在
コーネル大学畜産学部 准教授

テーマ

“強化” 哺育 パートⅢ
～理想的な子牛の哺育システムと長期的な影響～

日時 場所

2月12日(火)	熊本セミナー(火の国ハイツ)
2月13日(水)	神戸セミナー(ラッセホール)
2月15日(金)	福島セミナー(郡山ユラックス熱海)
2月18日(月)	札幌セミナー(ホテルポールスター札幌)
2月19日(火)	全酪連ワークショップ(ホテルポールスター札幌)

セミナー 内容

第1章 哺育子牛の栄養と飼養管理の変遷

- ・この技術の経緯と基本技術
- ・近代まで伝統的に行われてきた栄養と飼養管理(第2次大戦後)
- ・これまでに確立された技術のうち何が優れていて、何が誤っているのか?

第2章 近代的哺育・育成牛の栄養と飼養管理

～すでにNRCやCNCPSに採用されている概念

- ・ターゲット・グロウス・システム
現状の牛群評価方法と到達もしくは設定すべき発育目標
- ・加速発育システム
発育時期毎の異なる栄養要求(蛋白の分解性)・乳腺発達概念の誤り
- ・“強化”哺育システム
論理と実行方法

- ・NRC2001が成し得た事・次のNRCはどうなる?
- ・自動哺乳期システムの由来と考え方

第3章 “強化”哺育の検証

- ・コーネル大学牛群3群目までのデータ検証
- ・健康面への効果/免疫との関連
- ・発育促進による恩恵/初産の月齢や体格
- ・より高い生産性/乳量増加効果
- ・経済性の改善/飼料効率・経費節約ほか
- ・“強化”哺育に失敗する場合の理由いろいろ

第4章 哺育・育成栄養と飼養管理の将来

最新研究開発情報・新しい栄養要求ほか

参加費

1名様 ¥5,000
(昼食代含む)

対象

酪農家・組合役職員・公的機関指導者
あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



北海道 乳牛産地情報

平成24年12月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ✕……やや弱含み ↓……弱含み

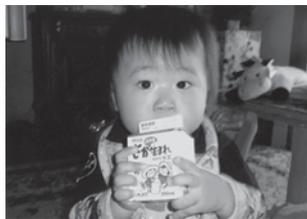
事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	札幌管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で99.4%、累計で100.9%。苫小牧管内月計で96.3%、累計で99.0%の実績となっております。初妊牛の価格動向ですが、酪農を取り巻く環境に大きな変化がない事と2~3月分娩が中心になる事から横這いで取引されるものと思われます。また、育成牛についても同様に横這いで推移するものと思われます。
	初妊牛	48~52	→	
	経産牛	40~45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	→	根釧管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.6%、累計で101.3%。中標津管内月計で102.3%、累計で102.5%の実績となっております。釧路地域も11月20日に初雪が降り、牧草地一面真っ白になっております。さて、12月の初妊牛の動向ですが、先月に引続き、高値を維持しています。特に根室管内に関しては十勝管内を凌ぐ勢いで高値を維持しており、特にF1腹とホル選別腹が堅調な動きを見せており、年内導入は3月中旬分娩くらいまで動くものと思われます。導入の動きも日々早くなっており、購買予定のある会員の皆様におかれましては、早めのご購買をされますようお願いいたします。
	初妊牛	50~56	→	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	帯広管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で100.6%、累計101.3%の実績となっております。12月の初妊牛の動向ですが、F1腹・ホル選別腹の需要が多く、一方でホル腹の需要が少ないため、両者での価格差が生じている状況となっております。中心となる分娩月は、2~3月腹となっておりますが、初妊牛の購買状況は例年と比べ、依然として早めの購買状況が続いております。
	初妊牛	49~54	→	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~33	→	道北管内の11月中旬までの生乳生産量は稚内管内月計で102.7%、累計101.5%。北見管内月計で103.5%、累計で102.1%の実績となっております。12月の初妊牛の価格動向ですが、2月~4月腹中心となり、2~3月腹については、需要が旺盛ではなく、価格は横這いで推移するものと思われます。4月以降の腹については需要がある程度多く見込まれるため、価格の急騰も予想されます。
	初妊牛	48~53	→	
	経産牛	40~47	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~35	→	道内の11月中旬までの生乳生産量前年比は月計101.7%、累計で101.6%と伸びが若干鈍化しています。初妊牛の12月の動向ですが、2~3月分娩腹が中心となります。正月明けの市場は中旬以降に開催されるため、3月腹もかなり動くものと思われます。价格的には春産みをにらみ、需要も活発になってくることも予想されますが、資源もある程度豊富なので、横這いで推移するものと思われます。道内は急激に冷え込んでまいりました。購買にお越しになられる方は防寒対策をしっかりとされ、来道されますよう宜しくお願いいたします。
	初妊牛	48~53	→	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

毎日ひとパック

今月の表紙は、「第3回酪農いきいきフォトコンテスト」(第41回全国発表大会にて開催)で優秀賞を受賞した「毎日ひとパック」(佐賀県 早田 辰巳氏 撮影)です。牛乳を美味しく飲んでる表情が可愛い一枚です。後ろの牛のぬいぐるみがそっと見守っています。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼早いもので、今年も1年が過ぎようとしていきます。今年は3年ぶりに酪青女と本会主催の全国発表大会が開催することが出来ました。来年度以降も、よりよい大会運営を目指しますので、よろしく願いいたします。

▼ご意見・ご要望・応援等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

編集後記



お詫びと訂正

本誌11月号11頁に掲載しました「見て歩紀」の内容に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。
 「牧場の現状」3行目 〈誤り〉 9月の出荷乳量は約1tでした。 → 〈正〉 9月の出荷乳量は約10tでした。

平成24年12月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION
 全酪連会報 12月号 No.567

●編集・発行人 中島 裕志郎
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
<http://www.zenrakuren.or.jp/>

12月号

新年のご挨拶	2
全国酪農協同組合連合会 代表理事会長 砂金基太郎 農林水産省生産局長 今井敏	
購買部だより/第11回 全酪連肉牛・肉用牛共助会	5
ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 報告(後編)	6
総務部だより/この冬の節電&夏の電力需給見通し	9
グループ活動紹介/上野地区酪農振興会	10
トピックス/愛知県酪農協同組合青年女性部白熱!全体研修会(名古屋)ほか	12
酪政連活動報告	17
日本酪農見て歩紀/三重県玉城町 林牧場	18
広告/全酪連・酪農セミナー2012 開催のご案内	20
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成23年12月)	22
平成23年度11月 生乳生産量と用途別処理量	24
広告/酪農家チーズ	26
今月の表紙/お父さんとミルク作り	27
今月の子どもギャラリー/灘小学校(西日本)4年 中村絳希	28

11月号

平成22年度 会員概況調査より	2
購買部だより/平成23年分から適用される税制改正事項	5
管理部だより/株式会社協和産業の紹介	6
嫁・婿が語る酪農の魅力/荒瀬川りりさん	8
こんな時どうする?コンプライアンス/	
労働安全衛生法の一部を改正する法律の公布について	10
全国酪農青年女性会議 平成23年度研修会	12
トピックス/今年も大盛況!若い力で盛り上げた鹿児島県酪農青年親善スポーツ大会(福岡)ほか	13
出版のお知らせ/草地管理指標	15
日本酪農見て歩紀/宮城県加美町 猪股牧場	16
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年1月)	20
平成23年度12月 生乳生産量と用途別処理量	22
人事異動	24
今月の表紙/「酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品	25
今月の子どもギャラリー/桑原小学校(中部)4年 岡田萌々	26

10月号

東日本大震災、原発事故、そして幾多の危機を乗り越える	2
全国酪農協同組合連合会 代表理事会長 砂金基太郎	
震災から1年経過して	3
監査室だより/リスクマネジメントとタイタニック号沈没	4
グループ活動紹介/愛知県酪農協同組合青年女性部	6
平成23年度 監事・役員研修会	8
トピックス/「なんらく新春交流会」開催(南信酪農協より)ほか	9
酪政連活動報告	14
日本酪農見て歩紀/佐賀県嬉野市(南ナカシマファーム)	15
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年2月)	18
平成23年度1月 生乳生産量と用途別処理量	20
作品募集のお知らせ	22
今月の表紙/「酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品	23
今月の子どもギャラリー/平野小学校(東北)2年 片山くるみ	24

9月号

第九次中期事業計画(案) 平成24~26年度	2
東日本大震災復興支援畜産フェア	5
TPP反対運動に酪農関係者約100名が参加	5
酪農部だより/平成24年度 計画生産について	6
嫁・婿が語る酪農の魅力/大渡 恵さん	8
全国酪農青年女性会議 浦久美子委員 農山漁村女性・シニア活動表彰 農林水産大臣賞を受賞!!	10
トピックス/北海道天塩町・JAてしお「友愛牧草」が福島県内の 酪農家へ届けられる!!(福島県酪農協より)ほか	11
日本酪農見て歩紀/北海道興部町 柴田牧場	15
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年3月)	18
平成23年度2月 生乳生産量と用途別処理量	20
今月の表紙/「酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品	22
今月の子どもギャラリー/関岡小学校(東北)2年 藤井翠	23
広告/全国酪農青年女性酪農発表大会	24

8月号

総務部だより/夏の電力需給状況について	2
~2011年の結果と、2012年の取組み~	2
グループ活動紹介/石川昌子さん	4
トピックス/「安心・安全な粗飼料を」と利根川(河)敷き込み捨てで消費者交流会開催!!(東毛酪農より)ほか	6
東北酪農婦が放射性物質汚染に係る要請を提出	10
日本酪農見て歩紀/山口県萩市 水谷信義牧場	13
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年4月)	16
平成23年度3月 生乳生産量と用途別処理量	18
酪政連活動報告	20
人事異動	21
新入職員入会式	21
今月の表紙/茶髪・すてきでしよ!	22
今月の子どもギャラリー/大野田小学校(東北)2年 菊池光姫	23
広告/全国酪農青年女性酪農発表大会	24

7月号

第41回 全国酪農青年女性酪農発表大会 発表者決定!!	2
4月25日、都内随所にてTPP交渉参加反対集会開催される	6
日本酪農政治連盟が平野復興大臣に原発事故に伴う酪農被害に関する要請を行う	7
栄える春の叙勲褒章	7
嫁・婿が語る酪農の魅力/久保田志保さん	8
トピックス/福島の酪農復興に大きな第一歩!!第43回福島県ホルスタインショー 開催!開催の喜びを分かち合う大会となりました!!(福島県酪農協より)ほか	10
日本酪農見て歩紀(埼玉県日高市 井上廣喜牧場)	15
酪農部だより/ワイド/全酪連ギフト商品について	18
広告/Zenraku Summer Gift	20
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年5月)	22
平成24年度4月 生乳生産量と用途別処理量	24
今月の表紙/「酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品	26
今月の子どもギャラリー/柳沢保育園(東北)4歳 佐々木大翔	27
広告/全国酪農青年女性酪農発表大会	28

6月号

グループ活動紹介/酪農ガールズ	2
購買部だより/ワイド/DMSシステム(酪農家経営管理支援システム)平成23年 集計結果	4
父の日に牛乳を贈ろう!	6
第39回なんらくの子どもギャラリー入賞作品紹介	12
トピックス/兵庫県酪農 牛乳の日イベント(大阪)ほか	15
日本酪農見て歩紀/大分県九重町 馬場牧場	19
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年6月)	22
平成23年度5月 生乳生産量と用途別処理量	24
酪政連活動報告	26
人事異動	26
今月の表紙/「酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品	27
今月の子どもギャラリー/馬場川小学校(北海道)4年 横山恵也	28

5月号

第63年度(平成24年度)通常総会開催される	2
第41回 全国酪農青年女性酪農発表大会①	5
管理部だより/クラウドって何?組織体とクラウドコンピューティング	10
嫁・婿が語る酪農の魅力/長壁 明美さん	12
トピックス/第24回飛騨高山クリーン作戦(飛騨酪農協より)ほか	14
春の褒章 受賞記念祝賀会	17
日本酪農見て歩紀(福島県本宮市 株T・ユニオンデーリ)	18
広告/ハイ・パフォーマンスに挑戦!	21
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年7月)	22
平成24年度6月 生乳生産量と用途別処理量	24
人事異動	26
今月の表紙/「酪農いきいきフォトコンテスト」最優秀作品	27
今月の子どもギャラリー/中央小学校(東北)6年 石澤愛	28

4月号

第41回 全国酪農青年女性酪農発表大会②	2
日本酪農見て歩紀/石川県能登町 西出宏牧場	5
監査室だより/不正と監査	8
グループ活動紹介/Desse Zeny	10
トピックス/夏季酪農子ピッチ勉強会開催される(仙台)ほか	12
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年8月)	16
平成24年度7月 生乳生産量と用途別処理量	18
今月の表紙/レッツメリーゴーランド	21
今月の子どもギャラリー/大泉東小学校(関甲信)5年 米沢郁海	22

3月号

全酪連 将来ビジョン	2
全国酪農青年女性会議 大井委員長に聞く!	4
嫁・婿が語る酪農の魅力/長恒久花さん	6
購買部だより/全酪連販売預託事業利用拡大支援策の実施について	8
トピックス/9月1日 福島県酪農協・小野町地区酪農協が合併認可書を交付(仙台)ほか	9
福島の酪農は負けない!!平成24年10月20日に第30回福島県ホルスタイン共進会開催	9
日本酪農見て歩紀/北海道富良野市 藤井牧場	14
酪政連活動報告	17
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年9月)	18
平成24年度8月 生乳生産量と用途別処理量	20
人事異動	22
今月の表紙/ごはん、食べてくれるかな?	23
今月の子どもギャラリー/馬場川小学校(北海道)4年 上泉美亜	24

2月号

平成24年度会員役員 米国視察研修報告	2
グループ活動紹介/小林市酪農青年女性連絡協議会	4
トピックス/福島の酪農復興に大きな一歩 復興牧場「ミネロファーム」	6
待ちに待った生乳の「初出荷」10月より始まる!!(仙台)ほか	6
日本酪農見て歩紀/岡山県岡山市 尾坂牧場	10
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年10月)	14
平成24年度9月 生乳生産量と用途別処理量	16
広告/Zenraku Winter Gift	18
広告/ハイ・パフォーマンスに挑戦!	20
今月の表紙/ちゃんとお手伝いしてるよ	21
今月の子どもギャラリー/豊富小学校(中部)3年 清水悠矢	22

1月号

ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 報告(前編)	2
平成24年度 全酪連会員担当者研修会	5
嫁・婿が語る酪農の魅力/山田克枝さん	6
全国酪農青年女性会議 二若副委員長に聞く!	8
トピックス/「マザーズ市場」開催される(熊本県酪農連)ほか	10
栄える秋の叙勲 褒章	14
11/15都内随所にてTPP反対緊急集会開催される!	14
日本酪農見て歩紀(新潟県新発田市 中野牧場)	15
原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成24年11月)	18
平成24年度10月 生乳生産量と用途別処理量	20
酪政連活動報告	22
広告/全酪連・酪農セミナー2013開催のご案内	23
今月の表紙/「毎日ひとパック」応募作品	24
今月の子どもギャラリー/東風小学校(九州)5年 小島慎太	26



今月の



入賞作品介绍

みんな仲間

はるかぜ
東風小学校(九州)5年 小島慎太



今月の入選作品は、はるかぜ東風小学校(九州)5年の小島慎太さんの「みんな仲間」です。大地の断面が登場するエコロジカルな視点を持った斬新な作品です。牛さんも蜂もアリもムカデも人間も自然の恩恵によって生かされていることが伝わってきます。さりげなく描かれたうんちがこの絵の胆になっています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議